

# アプローチNOW

発行・編集：岐阜一般労働組合 〒500-8402 岐阜県岐阜市竜田町4丁目3番地3

TEL：058-213-9330 FAX：058-213-9333

【ホームページ】<https://岐阜.全国一般.jp> 【メール】[scrum.giu@nifty.com](mailto:scrum.giu@nifty.com)

## 第72回定期大会を開催

岐阜一般労組は9月24日（日）、岐阜市勤労会館において第72回定期大会を開催。この間、コロナの影響により、一部制限しながらの開催でありましたが、今回はコロナ以前の通常開催に戻しての開催となりました。しかしながら、未だコロナは終息しておらず、またコロナによる組合活動の停滞などにより、出席者は例年に比べ少数となりました。【出席者21名・WEB出席2名】

冒頭、ハートランス支部の清水悟さんを大会議長に選出し、北島委員長のあいさつと新規加盟組合（業務委託配送支部）の紹介から始められました。続いて、来賓として、自治労全国一般評議会・亀崎安弘事務局長、全国ユニオン・鈴木剛会長、名古屋ふれあいユニオン・鶴丸周一郎委員長から祝辞をいただきました。また、組織内議員である、渡辺かざん（県議）、林裕之（関市議）、村山博司（岐南町議）から、それぞれ連帯の挨拶をいただきました。

その後、一般経過報告、決算報告、会計監査報告を行い、承認がされました。

議案審議に入り、第1号議案『運動方針（案）』では、『岐阜一般運動、中小労働運動を再び前進させよう！』をスローガンに掲げ、この1年間はコロナ前の活動に戻しつつ、再び力強く前進するための始めの1年として行こうと訴えられました。

引き続き、第2号議案『予算』、第3号議案『ストライキ権の確立』、第4号議案『役員改選』の提起を行い、いずれも賛成多数により承認がされました。

その後、大会宣言を採択し、最後に本間会長の団結ガンバローで、第72回定期大会を閉会しました。



---

## 第72回定期大会・大会宣言

---

新型コロナウイルス感染症は5類へ移行し、社会経済活動は回復を見せています。しかし今年7月の企業倒産は、感染拡大以来最大の前年同月比53%増であり、23年ぶりに連続して前年度を超えています。コロナ禍を支援資金でしのぎ、事業改善できなかった中小企業は、融資返済と労働力不足、物価高の三重苦を乗り切ることが困難な状態にあります。現場の労働者が必死の努力を続けてきたその先に、企業倒産が待っていたということのないよう、労働組合の存在意義を発揮しなければなりません。

一方、今春闘では「30年ぶりの高水準」とされる賃上げ率となりましたが、中小組合においては物価上昇率に追いつくことができていません。世界水準から見ても「安い国」となった日本の最低賃金近傍の労働者に「生計費」が重くのしかかっています。事態を憂慮した中央最低賃金審議会は、本年10月改定の最低賃金引上げ額の目安を全国加重平均で41円(4.3%)、時給1002円としました。高卒初任給や時給で働く労働者への実効性は認められますが、「人への投資」こそ、未来への投資だという概念は未だに定着していません。年収200万円の労働者が将来受け取る年金額は生活困窮レベルであり、貧困と格差の固定化や、低賃金単身者の社会保障問題に対し、労働組合がさらなる変革の声を上げる時です。

これら情勢が激しく変化する中、本定期大会は開催されました。踏みとどまり、励まし合ってきた組織の課題を共有し、春闘・一時金闘争に取り組み、地域全体の底上げを強化すること。全ての差別を許さず、憲法・労働法制の改悪に反対し続けていくことと同時に、組合員一人一人が共に支えあえる仲間の大切さ、団結の力の大切さを確認し合ったところです。

さらに、ここに集う私たちは、社会の不条理を許さず、団体交渉や労働委員会・裁判闘争を通じて社会通念を変革醸成する運動の砦である全国一般運動を守り続けます。次世代育成と運動継承、組織強化拡大という最重要課題に果敢に取り組みながら、たゆまず前進を続け、未来の仲間に恥じない存在を目指します。

そして、自由、尊厳、平等を保証された格差のない社会、人間の尊厳を堅持した働き方で、生き生きと働くことができる社会、平和で未来を描くことのできる社会をめざして、性別、国籍、業種の枠を超えて連帯し粘り強く運動を推し進めます。

以上、ここに宣言します。

2023年9月24日  
岐阜一般労働組合  
第72回定期大会